

## 24. 興道寺廃寺

所在地：三方郡美浜町興道寺

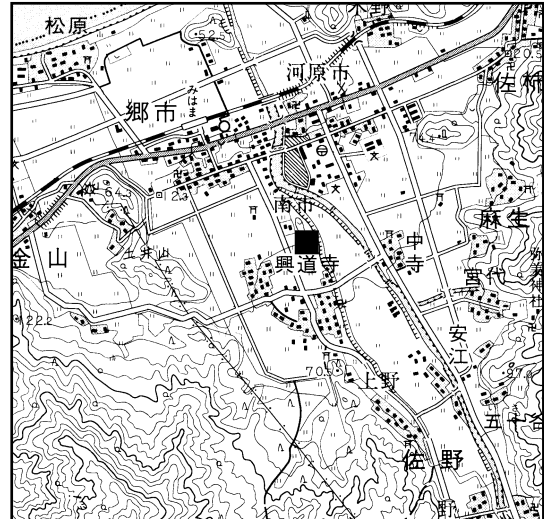
調査原因：内容確認（興道寺廃寺第13次調査）

調査期間：平成23年6月1日～9月30日

調査主体：美浜町教育委員会

調査面積：73.8㎡

時代：古墳時代後期～古代



位置図 (S=1/50,000)

**調査の概要** 今回の調査は、これまでの調査で明らかとなったことを再確認する、あるいはこれまでの調査を補足することを目的として、調査面積を絞って実施しました。

**遺構** 調査で明らかとなった主な成果は以下のとおりです。

①**寺域南方** 寺院再建期の南門基壇から南方に向けて広がる再建期の整地面を確認しました。この整地面は南門基壇から南に25mの範囲まで確認されましたが、寺域外まで丁寧な整地を施しており、一連の地域整備の中で寺院再建が進められたことを窺わせるものとして注目されます。ともすれば南門の正面には幢幡が立てられた景観も復元できます。

②**講堂基壇** これまでの調査で講堂基壇の東西南北の縁辺が断片的に見つかっていましたが、今回の調査で新たに南西隅部を検出し、さらに上下2層に基壇隅部が分布する状況が確認されました。講堂は金堂・塔の創建からかなり遅れて8世紀中頃に建立され、その後、金堂や塔、中門の再建が行われる中、講堂は南西隅部の部分的な補修に留まり、大規模な再建は行われなかったものと考えられます。講堂基壇の東方では1条の東西溝が検出され、伽藍内外を区画する、あるいは寺域内の排水を備えた溝であるものと考えられます。

③**寺域北限** これまでの調査で寺域北限を示すと考えられる1条の東西溝が部分的に検出されていましたが、さらに東に向かって溝が伸長する様子が確認されました。溝の南側では地山層の表面を丁寧に加工した痕跡が見られ、この溝は寺院の北面築地の外側の溝である可能性が考えられます。

**遺物** 遺物の大半は瓦ですが、今回の調査でも砲弾形の塑像螺髪4点が再建期の金堂基壇の北側（講堂基壇南西隅部付近）から出土しています。興道寺廃寺から出土した塑像螺髪、墨書土器、銭貨が平成23年9月1日に美浜町有形文化財に指定されました。

**まとめ** 今回の調査もこれまでの興道寺廃寺の調査内容を補足するという地味な調査に終始しましたが、寺域外の様子的一端も明らかになるなど、寺院周辺の古代景観を復元する上での新たな成果も得られました。平成24年3月に第9～13次調査の発掘調査報告書を刊行し、その成果を内外に公表しましたが、平成24年度以後においては遺跡の史跡指定を視野に補足的な調査を継続する予定です。 (松葉竜司)

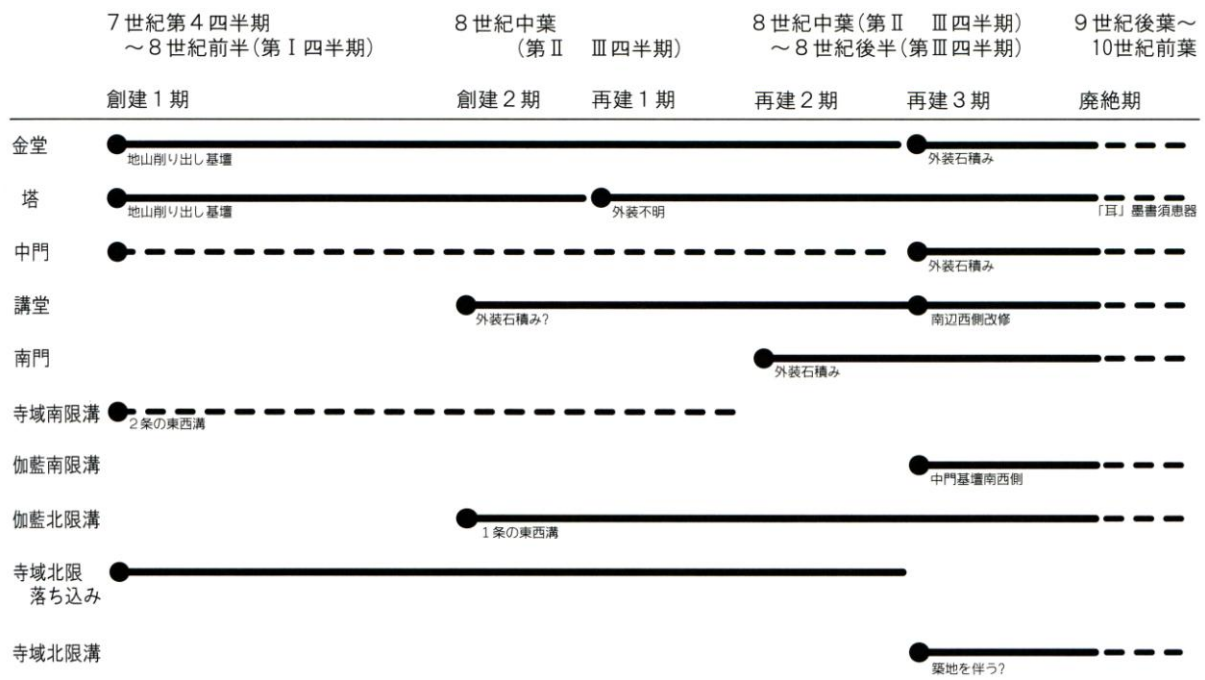


図1 興道寺廃寺変遷模式図



写真1 再建期金堂基壇北面階段



写真2 再建期南門基壇西辺



写真3 講堂基壇北辺



写真4 興道寺廃寺復元イラスト図